

1909 (明治42)年、海外に開くことを使命に

北山一郎(1870-1949)は合資会社「青浦商会」をつくった。青森市に本店、ロシア・ウラジオストクに支店を置いた。北山は、浅瀬石村(現黒石市)の豪農の家に生まれた。早稲田大学

5万トン時代へ 青森りんご輸出

5

に学び、帰郷後は県議会議員、衆院議員、青森市長などを歴任し、多くの事業を起している。

浅瀬石村はりんごの試作期から常に先頭を切っていた村である。そこに

育った北山はりんごに着目して、その販路を広く



北山 一郎

結果、本県は生産者が生産に力を入れてきた

「(抜粋)と抱負を語っている。要約すると、本県

青浦商会

進取の精神現在に続く

量・品質とも他県をしのぐ産地に育ってきた。し

らなる生産増加で生産者は販売で不利益となる恐れがあるので、積極的に海外に販路を拡大して生産者の利益を確保したいというものである。

青浦商会は1909年の設立から26年まで17年間にわたって営業された。当初の帝政ロシア時代は、りんごの輸入に寛大であったが、17年のロシア革命に成功した共産党政権は、高関税を課し、やがて輸入禁止措置をとったため、青浦商会の取り組みは断念されることになった。

ウラジオストクは当時、ロシア極東の唯一の貿易港で、シベリア鉄道も建設が始まっていて交通の要衝でもあった。この地域の人口は約200万人で当時の東京に匹敵した。青浦商会の狙いは当を得ており、多くの同業者が出資者としてりんご輸出に関わった功績は大きい。

しかし、当時は日露戦争が終了した後、共産党によるロシア革命、第1次世界大戦と政情が不安定で、為替の変動も激しく、まともに商売ができる環境にはなかった。その中で北山の進取の精神が、現在に続く青森りんご輸出の根底に生き続けているのではないかと考えている。

(県りんご輸出協会事務局長 深澤守)



ロシアのウラジオストクにあった青浦商会。1909年から17年間にわたって営業した(青森県りんご百年史から)